

屋外家具のスペースはグリーンやピンクをど色鮮やかな家具でコーディネート。カエデやヤグルマギクなどさまざまな植栽と共に構成。

## 家具がそこにあるだけで、外ってこんなに居心地よくなる？

パンデミックを経て、開放感あふれる自然に身を置くことの心地よさを世界が痛感しました。さらに技術の進化の後押しもあり、今年は屋外家具ブランドから多くの新作が登場。太陽の光や風、緑を五感で楽しむ屋外空間へのニーズはさらに高まっていきそうです。

1 フェルト生地を張り合わせ、ジグザグのステッチを施した新作ソファ。2・4 スタッキングできるラウンジチェア「Baia」も新登場。屋外家具のスタートから20年を記念してつくられた新バージョンの「Wave」(4)と同じく、シートに耐摩耗性や耐水性に優れたブランドオリジナルの素材、Twitapeを使用。模様は日本の伝統的な編みの技術が着想源になっている。3 ニレの古木を使った「Kiori」は屋外用コレクションのすべての張り地から選べる。

photo:Tomoyuki Tsuruta(写真1・2)

©Paola Lenti Japan  
https://www.paolalenti.jp



BRAND | パオラ レンティ

# Paola Lenti

常に進化を恐れず革新的なプロダクトで私たちを楽しませてくれるパオラ レンティ。今年

は以前から取り組んでいた環境に配慮したものづくりにさらに力を入れ、持続可能なデザインに真摯に向き合う姿勢が随所に感じられた。昨年、オブジェのような独創的なフォルムで話題を集めたカンパナ兄弟の「Mottainai」シリーズはホームユースにリデザイン。製造過程で生まれたフェルトの端切れをパッチワークのようにつないだ張り地が特徴で、中材には再生可能なポリエチレンフォームと再生ポリエチレン繊維「Aerelle®」が使われている。ほかにも新しく「Abonos™」という素材を採

妥協なき、サステナブルで美しいデザインを追求

用。これは川底から回収された古木材のことで、何千年の間水中に埋もれていたため耐水性、耐候性が高く、従来よりも製品の耐久性を大幅に向上させることができる。さらに展示会場自体にも大きなニュースが。再開発が進むマキアキーニ地区にある約4000㎡の古い工業団地だった場所を同社が買い取り、年内にギャラリーやレストラン、宿泊施設を併設した大型フラッグシップショップに再構築する予定だそう。「ミラノの人々にとってポジティブなオアシスになってほしい」と語った代表のパオラ・レンティ。クリエイティブなアイデアあふれる新スポットの完成が待ち遠しい。

# Outdoor Furniture